

## 人権

畠山千早

人権とは、人間が人間らしく生きるために、当然なこととしてみとめられている権利のことです。これから書くことは、ぼくの体験したことです。ぼくは予定より三ヶ月早く仮死状態で生まれたために、脳性マヒという障害になり手足が不自由になった。

生まれてからすぐに集中治療が始まった。生きるために体中くたでつながら生後8ヶ月からリハビリが始まり、多いときは週3回通い、一歩踏み出したのが3才6ヶ月だったと聞いた。それから歩けるようになるまでは、一年かかったそうです。

小学校に入学する前の年に、ぼくは母といっしょに、小学校、教育委員会、道の教育相談などに相談しに行った。

ただその当時剣淵では障害をもつ人が小学校に入学するという前例がなく、当時の小学校に何度も何度も母は足を運んでお願いをしたそうです。

ぼくが入学する時は初めて担任の先生の方に支援の先生がついてくれることになりました。

入学時ぼくは十分に階段を昇り降りするのが困難で、皆段には手すり、男子トイレには洋式トイレを取り付けてもらった。取り付けの際にはいろいろな施設を見にいき、写真を撮らせてもらって、ぼくにとってもっとも使いやすい物を選んで付けてもらった。これは中学校に入学する前にも同じことをしてもらった。

小学校に入学して周りの友達とも仲良くなり、学校生活が楽しくなっ

た。体育など体を動かす授業は低学年のころはなんとかついていけたし楽しかった。しかし学年が上がるにつれて、だんだんと授業の内容も難しくなってしだいに付いていけなくなり自分はなにができるんだと思うようになり、自分が嫌いになり体育も楽しくなくなった。けれど、親や周りの友達、先生方に支えられてはげまされ自分のやれる限りやればいいんだと思いまた体育の授業が楽しくなった。

小学校に入ってから5年目の時に、足の手術のために、旭川の養護学校に転校し、学校に通いながらリハビリを続けた。

養護学校での生活は初めての事ばかりだった。例えば廊下づたいで学校に行けたり、車イスの人のため段差がなく、ぼくからしてみれば驚きの連続だった。

そこに生活している人は今までにいた学校の人たちとはちがっていた。自分の力で歩ける人はほとんどおらず授業の内容も勉強もちがっていたのでまたびっくりした。

ぼくは、この両方の学校を経験して自分でどちらの学校にするかを決めることができた。ぼくは最終的に前の学校を選んで、中学校に入学し今も通っている。

中学校の公民という授業の中で、障害者基本法を学んだ。この法律には、障害のある人の自立をいっそう支援すること、社会のあらゆる分野での活動に参加する機会を実現することなどが示されている。

ぼくは人権というものを学んで人権は難しい物だと今までは思ったけど学んでみると、身近な物だと思った。

体に障害のある人にとっての不自由さは、障害のない人々から見ると

なかなか気づかないものだと思った。町の中を見ても、わずかな段差や  
タイルなど不自由なところはたくさんある。

これらのことも普通の人にとってはあたり前のことかもしれない。け  
どぼくや障害をもつ人から見ると大きい壁だ。けれどそれをとり払うに  
は、相手に自分の意志を伝えることが大事だと思う。

これからはぼくは、自分なりに、自分の言葉で相手に伝えていきたい  
と思う。